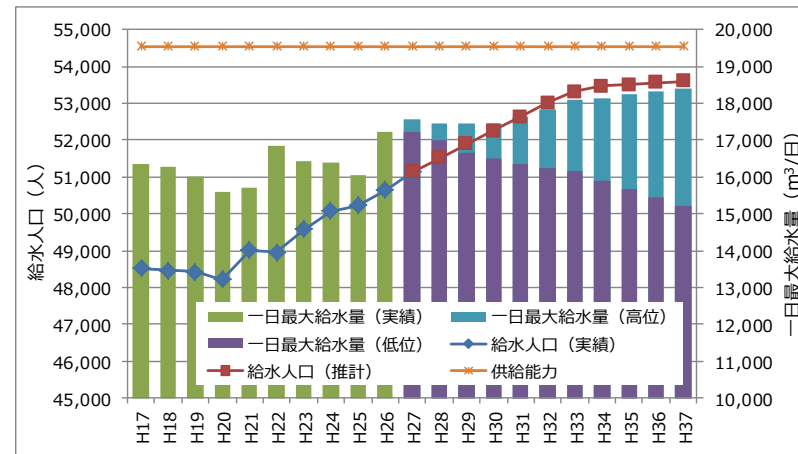


## 水需要の見通し

今後の滝沢市の人口は、近年の増加傾向が緩やかとなることを見込まれ、計画年度である平成37年度には54,000人程度になり、その後減少に転じると推計されています。

給水量の見通しについては、一日最大給水量が平成37年度には18,420m<sup>3</sup>/日(高位推計)と、現状の供給能力で十分対応可能であり、有収水量についてはほぼ横ばいで推移し、その後は減少傾向となると見込まれています。



## 財政の見通し

水道事業ビジョンでは、基本方針、主要施策の実施による将来像の実現に向けて、様々な水道管路整備事業、水道施設整備事業等を予定しており、アセットマネジメントに基づく中長期的な視点に立った資産管理を実践し、優先順位を考慮して事業費の平準化を図りながら施設整備を進めます。

将来における財政の見通しについては、料金収入が頭打ちとなる一方、老朽化施設の更新等に係る支出増が見込まれることから、さらなる事業の効率化・経費削減に取り組むとともに水道料金の適正化を図るものとし、計画期間内の各年度の収支差引(総収益-総費用)は100百万円程度で推移する見込みです。

資本的収支は、企業債の償還において、簡易水道事業分の元利金償還額の2分の1は一般会計からの繰入を予定するほか、企業債の借入は規範性を持って行いながら必要な資金を確保し、計画的な施設整備を進めていきます。

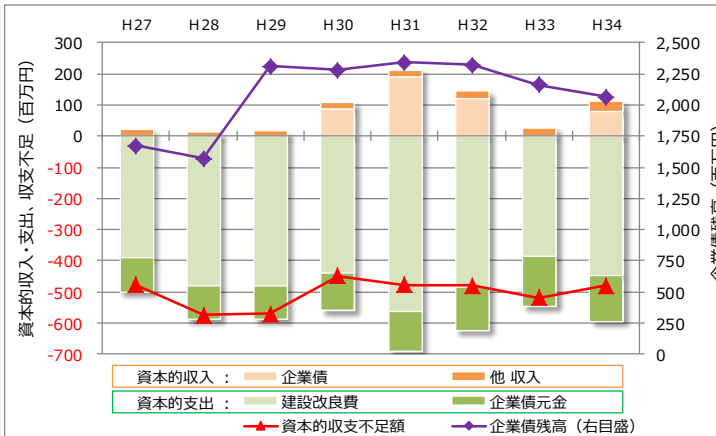
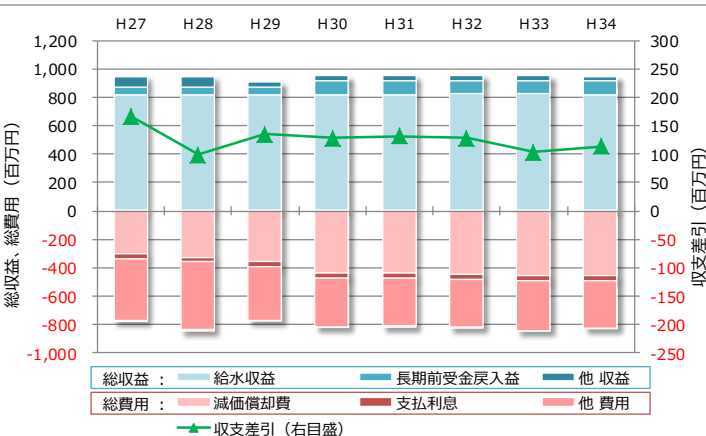
整備計画と概算事業費

施設	整備内容	前期事業費	後期事業費	事業費計
取水施設	水源開発、ポンプ更新等	150	39	189
導水施設	導水管耐震化、導水ポンプ更新	60	16	76
浄水施設	管理棟改修、排泥池築造	86		86
配水池	配水池築造(柳沢高区系)		343	343
電気計装設備	老朽化設備の更新	73	120	193
配水施設	水系連絡管整備、老朽管更新	1,027	932	1,959
緊急貯水槽	緊急貯水槽整備		100	100
計		1,396	1,550	2,946
営業設備	水道メーター、事務室借入負担金	185	130	315
調査設計費	設計費、測量費	48	64	112
用地費	水源保護用地、水道施設用地	28		28
事務費	建設改良事業に係る人件費等	134	132	266
総事業費		1,791	1,876	3,667

※前期は平成27年度から30年度、後期は平成31年度から34年度

財政の見通し (百万円)

区分	前期収支	後期収支	収支計
①水道事業収益	3,744	3,794	7,538
うち給水収益	3,258	3,273	6,531
うち長期前受金戻入益	264	386	650
②水道事業費	3,181	3,315	6,496
うち減価償却費	1,438	1,809	3,247
うち支払利息	147	148	295
③差引(①-②)	563	479	1,042
④資本的収入	162	498	660
うち企業債	90	390	480
⑤資本的支出	2,232	2,453	4,685
うち建設改良費	1,791	1,876	3,667
うち企業債元金	441	577	1,018
⑥収支不足額	2,070	1,955	4,025
企業債残高	2,281	2,064	2,064



# 滝沢市水道事業ビジョン 概要版

## 滝沢市水道事業ビジョンの策定にあたって

滝沢市の水道事業は、「施設建設」の時代から「維持・更新」の時代へと移行しつつあります。これからは、岩手山麓に由来する豊富で良質な地下水を将来にわたって安定的に供給するために、老朽化する施設の更新や災害等の緊急時に備えた水道施設の耐震性の強化などが課題となります。また、世帯構成の変化や節水器具の普及などから水需要が減少傾向にあり、人口減少の影響に伴う料金収入の減収など経営環境は厳しさを増すと見込まれます。

滝沢市水道事業ビジョンは、平成34年度までの水道事業の方向性を定め、事業者としての責務と経営の安定性・効率性を確保するために策定します。ビジョンに掲げる施策の実施にあたっては、当面4年間の主要施策、成果目標を盛り込んだ経営計画を策定しながら事業を推進していきます。

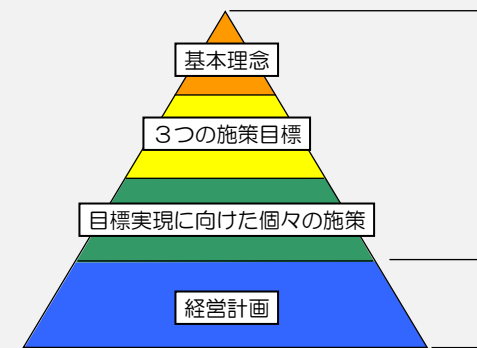
## 滝沢市水道事業の目指すべき方向

### 基本理念

## 信頼され続ける水道

### 施策目標

安心・安全	安心して飲むことができる安全な水道
安定・強靱	安定した給水を実現する強靱な水道
環境・持続	環境に配慮した持続可能な水道



【ビジョン目標年度】  
平成34年度

【経営計画】  
4年間の実施計画

- ◆ 前期経営計画 目標年度：平成30年度
- ◆ 後期経営計画 目標年度：平成34年度

## 滝沢市水道事業の概要

滝沢市の上水道事業は、昭和48年に水道創設事業認可を受け、昭和50年から給水を開始しました。その後、急激な人口増加に伴った三度の拡張事業を重ねて給水区域を拡大し、平成26年度末の給水人口は49,463人、給水普及率は96.6%となっています。市内には他に簡易水道事業が1箇所、専用水道が4箇所あり、平成29年度には一本木地区の簡易水道事業を上水道に統合する予定です。

平成27年3月31日現在

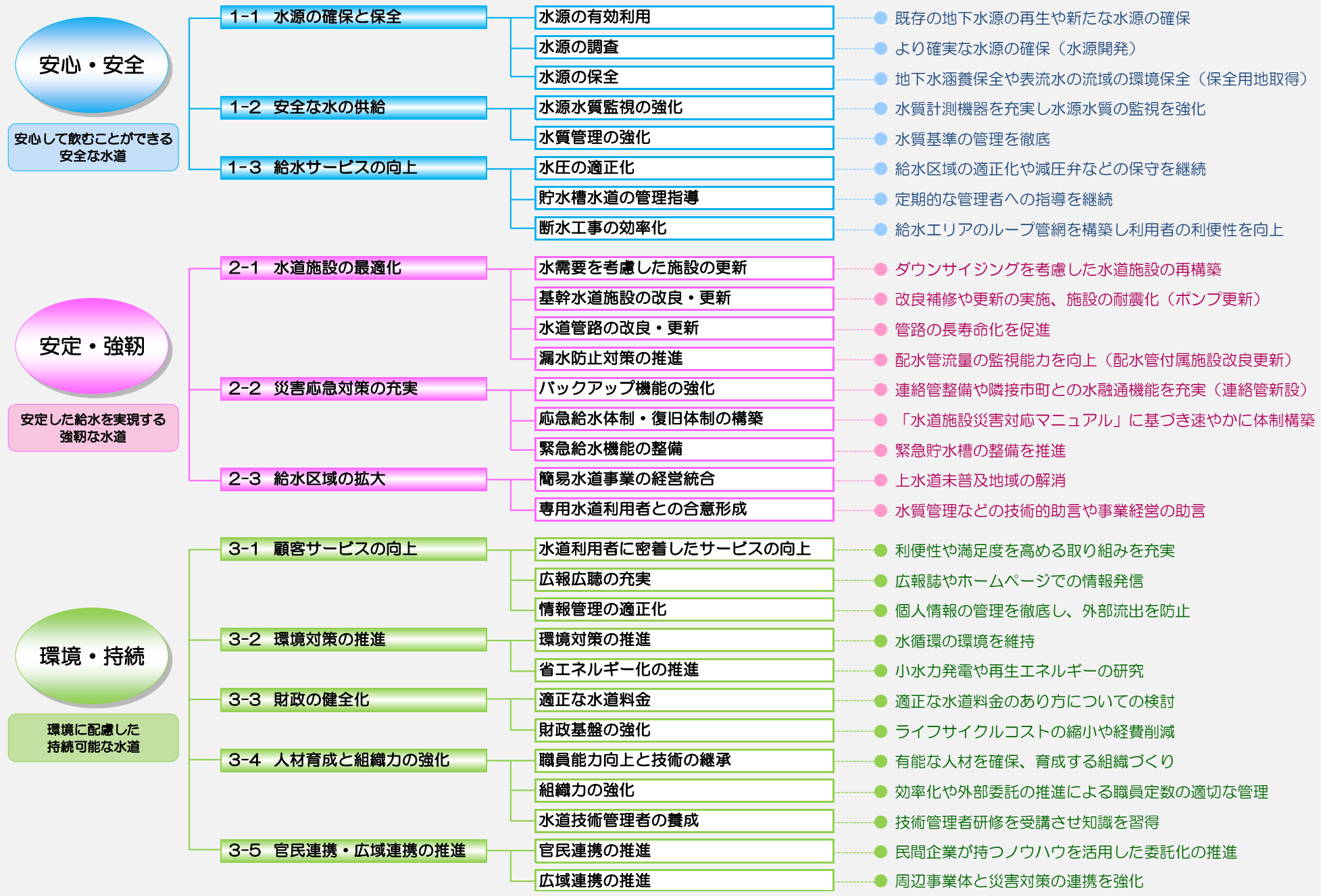
水道事業名	上水道事業	簡易水道事業	専用水道等	合計
経営主体又は管理主体	滝沢市	滝沢市	4箇所(注1)	-
計画給水人口(人)	49,321	1,490	-	50,811
現在給水戸数(人)	20,412	431	-	20,843
現在給水人口(人)	49,463	1,744	(注2)1,051	51,207
計画一日最大給水量(m <sup>3</sup> /日)	16,430	920	-	17,350
一日最大給水量(H26年度実績)(m <sup>3</sup> /日)	15,344	723	-	16,067
一日平均給水量(H26年度実績)(m <sup>3</sup> /日)	13,838	448	-	14,286
水道普及率	対行政区内人口(%) 89.8	対給水区域内人口(%) 3.2	1.9	94.9
水源の種類	表流水(急流3過) 金沢川 3,000 諸葛川 3,000 地下水(深井戸) 13,540 合計 19,540	湧水 柳沢大湧口 1,100	湧水・地下水	20,640

(注1) 柳沢開拓水道、岩手県立盛岡農業高等学校、陸上自衛隊岩手駐屯地、国立岩手山青年の家  
(注2) 専用水道給水人口は平成26年度水道統計を基に一部推計し算出している。

# 滝沢市水道事業ビジョンにおける施策体系

## ★施策体系

信頼され続ける水道



## ★目標とする指標

区分	指標	説明	平成26年度	平成30年度	平成34年度
安心・安全	塩素臭から見たおいしい水達成率 (%)	残留塩素濃度から見た、管理目標達成率 (0.4mg/l以下)	87.5	100.0	100.0
	地下水率 (%)	水源、利用水量のうち地下水の割合。	95.0	96.0	97.0
	有収率 (%)	年間有収水量を年間配水量で割ったもの。	90.1	91.0	92.0
安定・強靱	配水池貯留能力 (日)	給水に対する安全性、災害・事故等に対する危機対応性を示す。	0.85	0.85	0.87
	給水拠点密度 (箇所/km <sup>2</sup> )	給水区域当りの拠点数であり、緊急時の利用しやすさを表す。	8.9	11.1	13.4
	配水池耐震施設率 (%)	耐震対策の施されている配水池容量の割合。	55.3	55.3	60.3
	管路の耐震化率【全線】 (%)	管路総延長のうち耐震管の占める割合。	20.0	24.6	29.2
	管路の耐震化率【幹線】 (%)	幹線管路のうち耐震管の占める割合。	17.4	18.4	19.4
	経営資本営業利益率 (%)	経営成績に対する総合的な指標であり、指標は高いほど良い。	2.9	0.6	0.5
環境・持続	経常収支比率 (%)	収益性を見る指標で、この比率が高いほど経常利益率が高い。	133.0	115.8	113.8
	給水収益に対する企業債残高の割合 (%)	企業債残高の規模と経営への影響を分析するための指標。	221.8	280.0	252.3
	給水原価 (円/m <sup>3</sup> )	有収水量 1 m <sup>3</sup> 当りについての費用を表す。	154.3	180.6	186.5
	水道業務経験年数度 (年/人)	組織全体とすれば十分経験を積んだ職員がいることが望ましい。	4.5	6.0	7.0
	配水量1立方メートル当たり消費エネルギー (MJ/m <sup>3</sup> )	全施設での総エネルギー消費量を年間配水量で割ったもの。	1.03	1.03	1.03

## フォローアップ

水道事業ビジョンでは、平成 34 年度までを計画期間と定めますが、水源に関する団体との理解促進や施設整備の進捗状況を滝沢市上下水道事業経営審議会に中間年で報告し、ご意見をいただきながら後期の取り組みに反映していきます。また、今後の社会情勢の変化や広聴活動の結果によっては、計画の見直しに柔軟に対応していきます。

